

第81期
中間報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日

FINE & HIGH QUALITY



日本精線株式会社

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線ならびに金属繊維(ナスロン)を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様ならびにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードしつづけています。

株主の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第81期中間期(第2四半期累計期間、平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成22年12月



代表取締役社長

近藤 龍夫

当中間期(第2四半期連結累計期間)におけるわが国経済は、海外需要の増加をはじめ政府の景気対策などに支えられ、緩やかながらも回復傾向を維持しました。しかしながら、円高進行、欧州の財政問題や米国の景気減速などの懸念材料は多く、先行き不透明感が強まってまいりました。

ステンレス鋼線業界におきましても、自動車業界や家電業界の生産回復に伴う需要の増加により、出荷数量が前年同期に比べ大幅に回復しましたが、依然直近のピークに比べ9割程度の水準に止まっております。

このような状況のもと、当社グループでは、(1)ROA10%以上、(2)海外売上高比率25%以上、(3)高機能製品の売上高比率60%以上、などを経営目標とする『第11次中期計画』(最終年度平成24年3月期)の達成に向け、企業体質の強化と収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。この結果、当中間期の売上高は165億35百万円と前年同期比68.3%の増収となりました。

損益につきましては、売上増に伴う粗利の増加や工場操業度の一層の改善などにより経常利益は18億25百万円(前年同期は経常損失6億8百万円)、四半期純利益は8億98百万円(前年同期

は四半期純損失3億94百万円)となりました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき4円とさせていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

国内外の需要回復により、販売数量が前年同期に比べて増加したことに加え、販売価格を引き上げたことにより、ステンレス鋼線部門の売上高は144億13百万円(前年同期比67.0%増)となりました。

主力のばね用材は、自動車や家電の生産増により需要は堅調に推移し、輸出も好調な海外需要に支えられて増加しました。また、デジタル機器向けの高機能製品は旺盛な需要により高水準で安定した販売を維持し、自動車向け耐熱ボルト用材などの独自製品も増加基調で推移しました。一方で、一部汎用品は売上増となったものの、夏場以降ニッケル価格変動に伴う製品価格の先安感から買い控えなどの動きもありました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO., LTD. につきましては、海外ステンレス鋼線メーカーとの競争は依然として厳しいものの、タイ国内需要の増加に加えて、海外市場も需要回復によりアジア地域向けに売上が増加した結果、総じて堅調となりました。

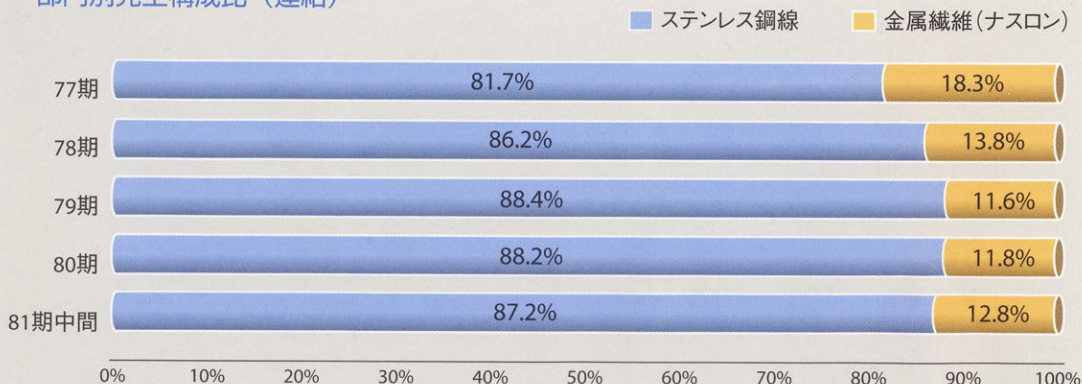
金属繊維(ナスロン)部門

主力のフィルターは、薄型テレビパネルフィルム生産などに使用される高機能樹脂用が顧客の設備投資の回復により需要増となりました。また、産業資材向けでは、自動車生産増加に伴い自動車硝子製造用織布が順調に回復基調となり、さら

に超精密ガスフィルター(ナスクリーン)が、世界的な半導体需要の好調に支えられ過去最高の売上となりました。また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましては、回復基調の需要を背景に拡販強化の効果も現れはじめており、前年同期に比べて売上高は大幅に増加しました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は21億22百万円(前年同期比77.9%増)となりました。

部門別売上構成比(連結)



(注) 1. 平成19年10月に大同ステンレス株式会社を吸収合併したことにより、第78期以降ステンレス鋼線部門の構成比率が大きく上昇しております。

2. 部門区分につき、従来の「その他加工品」は第79期より「ステンレス鋼線」に含めて集計することいたしましたので、第78期以前も同様の方法にて集計しております。

今後の見通しといたしましては、政府の景気対策終了による自動車や家電の生産減少、過去最高値に迫る円高進行による影響、海外では欧州の財政問題や米国景気の減速など、先行きの不透明感が強まっております。

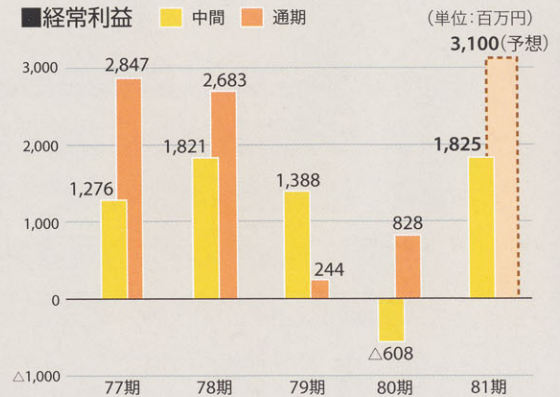
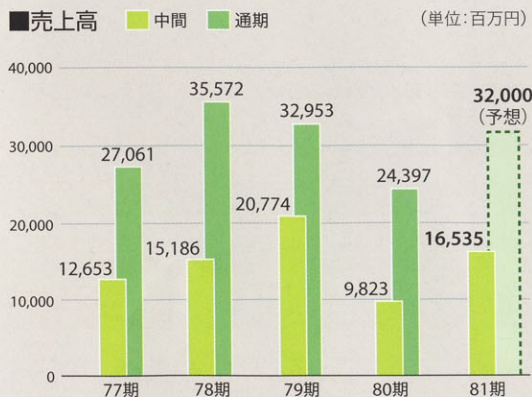
また、当社グループの主力商品であるステンレス鋼線は、高機能製品や独自製品の需要が底堅く比較的堅調に推移しているものの、一部汎用品の需要はニッケル相場の変動リスクに晒されており、加えて中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化が懸念されます。

こうした中で、当社グループは斯かる経営環境に対応すべく、前述の『第11次中期計画』の課題に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ボルト用材や切削性に優れた超快削用鋼線などの独自製品の拡販に加え、新製品・新用途製品の立ち上げを推進しております。一方、生産面では国内3工場・海外2工場の拡充と生産体制の最適化を一層推進するとともに、開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することにより、新製品開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでおります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用による海外市場への拡販、また、需要の増加

業績の推移(連結)



やより高精度化する需要に応えるべく設備投資を継続して実施しております。

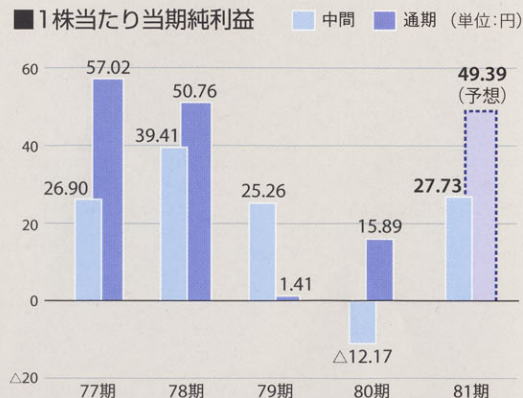
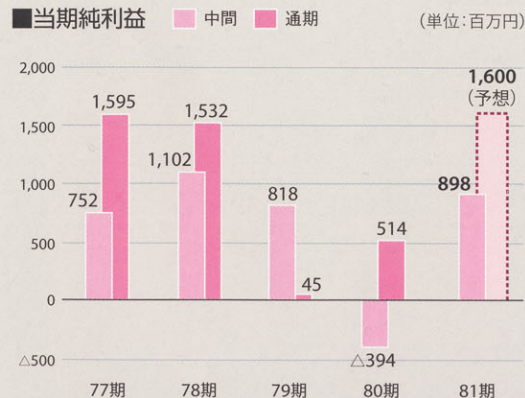
さらに環境ビジネスへの参入を目指し、天然ガスや都市ガスから高純度の水素を取り出す水素分離膜モジュールの立ち上げを図っております。また、シリコンやサファイアなどの切断用ダイヤモンドソーワイヤー（商品名：さスカット）や高圧水素環境下で使用可能なね用ステンレス鋼線（商品名：ハイプレミアム）の本格販売に加えて、クリーンエネルギー関連製品や医療・水処理向け高性能樹脂用ナスロンフィルターなどの拡充にも鋭意取り組んでおります。

以上の諸施策を着実に実行し、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や

高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』を目指してまいります。

なお、平成23年3月期の連結通期業績は、売上高320億円（前期比31.2%増）、経常利益31億円（同274.0%増）、当期純利益16億円（同210.7%増）を予想しており、利益はいずれも過去最高益を更新する見込みであります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	期 別		
	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成21年9月30日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	17,942	13,953	16,771
現金及び預金	5,822	3,996	5,100
受取手形及び売掛金	6,621	5,242	6,342
商品及び製品	1,511	1,266	1,428
仕掛品	2,124	1,835	2,252
原材料及び貯蔵品	1,420	1,243	1,285
その他	441	368	361
固定資産	12,209	12,885	12,226
有形固定資産	9,526	9,666	9,328
建物及び構築物	3,043	3,217	3,116
機械装置及び運搬具	4,386	4,381	4,057
土地	1,809	1,819	1,808
リース資産	33	8	41
建設仮勘定	43	46	97
その他	209	192	208
無形固定資産	458	392	505
投資その他の資産	2,224	2,826	2,393
資産合計	30,151	26,838	28,998

科 目	期 別		
	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成21年9月30日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	7,061	4,696	6,336
支払手形及び買掛金	4,284	3,100	4,508
短期借入金	781	740	768
未払法人税等	802	29	131
賞与引当金	420	410	420
その他	773	416	507
固定負債	4,155	4,654	4,355
長期借入金	895	1,391	1,143
退職給付引当金	2,985	3,099	2,982
役員退職慰労引当金	91	98	115
資産除去債務	72	—	—
その他	111	65	115
負債合計	11,217	9,351	10,692

純資産の部			
株主資本	18,985	17,308	18,217
資本金	5,000	5,000	5,000
資本剰余金	5,446	5,446	5,446
利益剰余金	8,564	6,886	7,795
自己株式	△ 25	△ 24	△ 24
評価・換算差額等	△244	△ 49	△118
その他有価証券評価差額金	28	191	147
繰延ヘッジ損益	—	—	△ 0
土地再評価差額金	127	127	127
為替換算調整勘定	△400	△368	△394
少数株主持分	193	229	207
純資産合計	18,934	17,487	18,306
負債純資産合計	30,151	26,838	28,998

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

- ①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。
- ②当第2四半期累計期間及び前第2四半期累計期間は一部簡便な会計処理を適用しております。
- ③記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)	前期
		(平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	(平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高		16,535	9,823	24,397
売上原価		13,346	9,352	21,141
売上総利益		3,188	470	3,256
販売費及び一般管理費		1,386	1,203	2,582
営業利益又は営業損失(△)		1,802	△ 732	673
営業外収益		55	150	215
営業外費用		32	26	60
経常利益又は経常損失(△)		1,825	△ 608	828
特別利益		—	2	3
特別損失		119	27	60
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) 又は税金等調整前当期純利益		1,705	△ 633	771
法人税、住民税及び事業税		861	12	112
法人税等調整額		△ 44	△ 238	169
少数株主損失(△)		△ 10	△ 12	△ 25
四半期純利益又は四半期純損失(△)又は当期純利益		898	△ 394	514

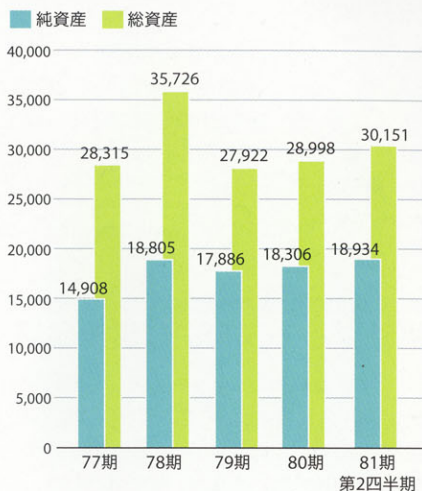
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期(累計)	前第2四半期(累計)	前期
		(平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	(平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,648	1,277	3,021
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 559	△ 539	△ 955
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 368	△ 469	△ 687
現金及び現金同等物に係る換算差額		2	4	△ 1
現金及び現金同等物の増減額		721	272	1,376
現金及び現金同等物期首残高		5,141	3,724	3,724
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		—	40	40
現金及び現金同等物四半期末又は期末残高		5,863	4,037	5,141

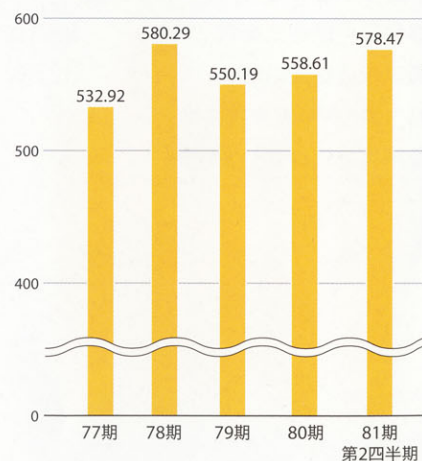
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況 (平成22年9月30日現在)

会社概要

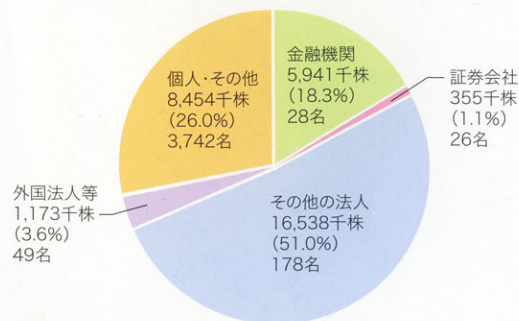
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 昭和26年6月30日
資本金 50億円
従業員数 548名
ホームページアドレス <http://www.n-seisen.co.jp/>

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 82,800,000株
- 発行済株式の総数 32,461,468株
- 当第2四半期末株主数 4,023名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本社	大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店・営業所	大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)・名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区)
工場	枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)・名古屋(名古屋港区)

■主な子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO., LTD. (*)	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*)	70%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連

(*)は連結対象子会社

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	13,103 ^{千株}	40.44%
日本冶金工業株式会社	1,688	5.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,283	3.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,222	3.77
株式会社みずほコーポレート銀行	1,086	3.35
前尾和男	541	1.66
特殊発條興業株式会社	532	1.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	406	1.25
株式会社池田泉州銀行	401	1.23
株式会社三菱東京UFJ銀行	338	1.04

(注)持株比率は自己株式(64,291株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	近 藤 龍 夫
*取締役	藤 平 芳 昭
*取締役	上 田 啓 介
*取締役	衣 川 公 尊
*取締役	多 賀 正 宏
*取締役	児 玉 勝 馬
取締役	安 田 保 馬
常勤監査役	但 馬 進
常勤監査役	稲 垣 多 津 夫
監査役	橋 爪 優 真
監査役	橋 之 口 真

執行役員

上席常務執行役員	藤 平 芳 昭
常務執行役員	上 田 啓 介
常務執行役員	衣 川 公 尊
常務執行役員	岸 木 雅 彦
常務執行役員	石 部 英 臣
常務執行役員	宮 城 修 司
常務執行役員	多 賀 正 宏
執行役員	菊 田 真 佐 人
執行役員	児 玉 勝 馬
執行役員	中 川 準 市
執行役員	新 川 博 司
執行役員	川 端 泰 司

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、 あらかじめ公告する一定の日
剰余金配当の基準日	期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載
証券コード	5659
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) ●インターネット http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/

NIPPON SEISEN CO., LTD.

